

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991400029		
法人名	社会福祉法人 蓬愛会		
事業所名	城下庵		
所在地	栃木県 さくら市喜連川3609		
自己評価作成日	平成24年11月12日	評価結果市町村受理日	平成25年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成24年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

歴史のある城下町、さくら市喜連川の中心部に位置し街並みの景観にもとけ込む建物である。城下庵は開設して5年目を迎えることができました。利用者様、ご家族様をはじめ地域の方々のご支援によるものであり心より感謝申し上げます。  
 当事業所は同じ喜連川に同一法人の特別養護老人ホームや居宅介護支援事業所もあるため、多様なサービスの提供と共に、地域に根ざした福祉の発展に努めている。法人の理念でもある、今日の一・一日を楽しく安らぎのある毎日とするを念頭に、笑顔が多く見られる環境作り、また、小規模多機能ならではの特徴を生かし、日常生活機能が落ちてきても在宅の生活が長く送れるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所(高齢者グループホーム)と小規模多機能型居宅介護事業所が併設されていて、利用者同士が自由に交流出来、馴染みの関係が構築されている。また、グループホームにとどまらず、法人内の他のサービスや様々な情報提供を心掛け、利用者にとってよりよい選択ができるような支援を行っていきたく考えている事業所である。さらに、管理者、職員は常に事業所と地域とのつながりを大切に、回覧板や外出を活用し、地域との交流を深めている。職員は「いつも笑顔で優しさに触れ合う」と考え、日々の支援に努めている。職員が立ち止まりを感じた時は個別面談等を行いながら、それぞれの個性を尊重した運営がされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	城下庵の理念として「生活にゆとりと楽しみ、生きがいもてる」との理念で取り組んでいる。地域密着型としての理念を鑑み、見直しについて話し合いを行っている。又、施設内研修にて法人の理念についても理解を深め共有を図っている。	職員は「生活にゆとりと楽しみ、生きがいを持てる」という城下庵の理念と合わせて法人の理念についても、常に立ち止まって考え、ケアサービス提供の場面でも理念を意識しながら反映できている。また、地域密着型サービスとしての理念を鑑み、見直しを検討している	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	建物内での生活ではなく、天気や気候の良い時には積極的に外に出ることで、地域とのつながりや交流を図っている。自治会の加入や地区行事への参加、又、施設の行事には回覧板等にて近隣への周知や参加の呼びかけを行っている。	自治会に加入し、回覧板を活用し、事業所の行事への参加の呼びかけを行っている。また、天王祭・春のお祭り等の地域の行事に参加する他に、地域の方々に事業所を知ってもらうきっかけづくりとして積極的に外出している。外出を通じて、地域の一員として暮らし続けられるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や見学等をおし、どのような認知症の高齢者がいるのか、どんな対応が大切なのかをアピールし、運営推進会議においても近隣の方と共に認知症についてのどのような取組を図っているか話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては、事業所の活動報告、行事、現状の話題や問題点などについて話し合いを行っている。活動紹介や行事等は写真のスライドを用いてわかりやすくしている。又、地元の消防署や警察官に参加を依頼し、避難訓練、防犯等について話をしている。	運営推進会議は、元民生委員・現民生委員・市職員・家族、状況によって消防署・警察等がメンバーとなり、2ヵ月毎に開催している。会議では利用状況や取り組み状況等の報告を行っている他、参加メンバーからの意見や助言をもらい、それらを運営に役立てている。なお、多くの家族が参加しやすい時間帯の開催を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ連絡を取り合いながら協力している。運営推進会議には市の担当者の参加が得られている。又、今年度開設5周年を迎え、記念式典や記念誌の寄稿文に市長の挨拶を頂くことができた。	市の担当者が運営推進会議等で来所した際には、問題点の相談や必要に応じた助言をもらうなど協力関係が構築されている。なお、当事業所の創立5周年式典の際には市長の挨拶を頂くなど、連携が図られている。	

認知症対応型共同生活介護城下庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除に関するマニュアルを基に介護保険指定基準の規定、身体拘束による問題、弊害等施設内外の研修にて周知をはかっている。日中玄関等の鍵をかけないケアは昔からの法人の理念でもある。又、研修にて言葉使いによる拘束についての理解を深めている。	職員は月1回内部研修において、身体拘束の内容やその弊害を認識しており、身体拘束のないケアに取り組んでいる。一人ひとりの予測されるリスクを家族等と話しあいながら抑圧感のない暮らしの支援に努めている。玄関の施錠はせず、外出傾向のある利用者には職員が見守りながら、会話を楽しむなどの工夫をし、対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関するマニュアルを作成し、マニュアルに基づいて、日頃の利用者の表情や仕草、全身状況の観察に気を配り疑わしい事については管理者へ報告することとしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修にて権利擁護についての制度を学んでいる。日常生活自立支援事業や成年後見制度について必要性がある時には地域包括支援センター等と連携していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に毎月かかる利用料金、入居時に必要なもの等を説明し、納得して頂いてから入居の契約を行う。3年毎の介護保険の改正、加算の内容についても重要事項説明書を基に話をする。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の方も参加して頂き事例の話などを用いて意見を引き出すようにしている。又、担当者会議や面会、家族への手紙等のことで家族からの意見、要望を周知している。	意見や要望が言いやすい雰囲気や環境づくりを心掛け、何でも言える信頼関係の構築に努めている。苦情については、利用開始時に重要事項説明書にて、事業所以外の外部の苦情受付機関に申し出が出来る事を説明している。	無記名のアンケート等を実施し、家族等の意見・不満・苦情等を把握し、さらなるサービスの向上につなげていくことに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日朝、夕に行われているミーティングに管理者、介護支援専門員、看護職員、介護職員が参加し利用者のサービスに関する事、運営等の確認を行っている。また、施設内研修に全員が参加している。職員の状況や希望により個別に面談を行う。	毎朝夕のミーティング時に職員と管理者が参加し、現場職員の意見とサービスに関する事や運営に関する事の確認をしている。また、状況に応じて個別面談等も行っている。職員のスキルアップを目的に内部研修や外部研修の報告などの際に、発表の機会を設定する等向上心を持って働けるよう配慮している。	

認知症対応型共同生活介護城下庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種の研修会や勉強会等への参加を行っている。施設内だけではなく外部研修で得たことが職員の刺激にもつながる。資格取得や福利厚生の充実に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福利厚生、親睦会活動の充実を図り又、各種の研修会・勉強会等の参加を行っている。就業等に関する事由についてはその都度話し合いを行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	栃木県老人福祉施設協議会や、さくら市内でのケアマネ連絡協議会への参加による情報交換を行っている。研修等に参加し他事業所との交流や意見交換を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設を見学して頂き、生活の場を見ていただきます。利用者の意向や要望については十分に話し合う時間をつくり利用につなげている。本人や家族の不安や悩みを受け止め本人の声に耳を傾けながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の立場に立って、利用者の意向や要望を踏まえつつ家族の不安や求めている事を受け入れ安心できる生活の支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族の状態や要望を理解し施設での生活が適しているのかを見極め、他サービスの利用が適している場合には、包括や他事業所へ相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個性が発揮できる環境作りをし、本人のできる事に配慮しながら調理（漬物・お饅頭作り）や洗濯物たたみ、生活文化等を入居者から教えてもらう事も多くあり、日々の生活での役割を共に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。		

認知症対応型共同生活介護城下庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での様子を電話で連絡したり、面会時に日頃の状況を伝えている。また、利用者・家族・施設との話し合いの中でこれまでの家族間の関係を踏まえつつ、家族が対応する事を本人が望んでいる場合には家族に協力していただくように依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の知人や友人の方が面会に来られた時には、別の場所を提供するなど、今までの付き合いを維持できるようにしている。また、利用者の要望にそえるよう家族の協力のもとでお墓参りや外泊・外食などする機会を作って継続できる関係作りの支援をしている。	利用者がこれまで培ってきた人や、場所との関係を断ち切る事がないよう家族等の協力も得ながら、積極的に支援している。入所前に利用していた床屋や踊りの教室に継続的に通うなど、個々の状況に応じて支援し、馴染みの関係が継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者の状況や様子を理解し、利用者が孤立しないよう席の配慮を行っている。トラブルの際には職員が速やかに間に入り、認知症があっても孤立しないよう共に支え合える環境づくりが出来るよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後においても、相談や支援に応じる姿勢を示しながらその後の様子を確認するよう心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面接で本人や家族の意向・生活歴・身体状況等を確認している。また、入居後は、日頃の会話や様子観察により、入居者一人ひとりの意向の把握に努め、その人らしい生活を送れる様に支援している。	日々の関わりの中から、行動や表情を通して思いや意向の把握に努めている。また、家族からの生活歴の情報も参考にしながら本人本位の検討に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接には時間をかけ情報収集に努めている。初回アセスメントで把握しきれない生活歴等を日常生活の会話の中から情報収集し、入居後もこれまでの習慣が継続できるようケアプランに取り入れている。		

認知症対応型共同生活介護城下庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状把握のために些細な事柄や経過記録、日誌等を参考にしている。一日のスケジュールについては細かく定めず、本人の希望等を受け入れるようにしている。本人とコミュニケーションを図りながら、行動や動作からの生活リズムの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前の面接には時間をかけ情報収集に努め、個人記録や申し送り等にて日々の変化に対応し、また家族の面会時にも意見を聞き入居者主体の暮らしを反映したケアプランを作成している。毎月、目標の達成状況の確認及び評価を行い、必要に応じて介護計画の見直しを行なっている。	利用者・家族等からのニーズを確認し、職員の気づきや提案等を参考にしながら、個別に具体的な介護計画を作成している。半年に1回見直しを行っているが、状態に変化が見られた場合には、家族や医師とも相談をしながら随時見直し変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各職員の気づきや個々の状態の変化は、日誌や個人記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。また、それらの記録をもとに介護計画の見直しに活かす様になっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の協力を得て、外食や住み慣れた自宅への立ち寄りなど気分転換を図るなどしている。また、地域の祭りや行事等に出かけ、可能な限り柔軟な対応が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアと定期的に交流したり、地域行事の参加や掛かりつけの美容室等に行き外部との交流、馴染みの関係を確立している。また、運営推進会議には、民生委員や自治会長等と意見交換をする機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医を確認している。本人や家族の希望するかかりつけ医での受診が可能となっており、基本的には家族同行の受診となっているが、独居の方や家族が遠方の方などは事業所に対応している。また、必要に応じて、バイタル記録など提供している。緊急時については、家族とも相談し協力医療機関へ受診してもらうこともある。	利用者各々のかかりつけ医があり、家族の付き添いのもと、受診をしている。バイタル記録等の提供や受診結果の報告など、情報を共有しながら健康状態や服薬等の把握に努めている。歯科・眼科等も家族の協力のもと対応しているが、家族等が行けない時は職員が付き添っている。なお、緊急時には家族等と相談し、協力医療機関への受診を促がしている。	

認知症対応型共同生活介護城下庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、利用者の健康状態の把握に努め、状態変化や異常に早期発見できるよう介護職員とも関係を密にしている。状況により家族や主治医との連携を図りながら健康管理に努めている。また、オンコール体制により連絡を取りやすい体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づ	入院の際、医療関係者に本人の普段の状況、急変時の状況を伝えている。時期をみて面会に行き家族や医療関係者から状態を伺い早期治癒・退院に向けて支援する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた場合は本人・家族の意向を確認しながら、事業所でできる事やリスクの説明をしている。段階ごとに家族・医師と連携をとり、対応方針の共有を図っていく。また、本人の希望やホームでの生活での不安や恐怖がないかなど、その都度確認しながら話し合い方針を決めている。	利用者や、家族のニーズに応じて、取り組んでいこうと考えている。その際には、事業所で出来る事やリスクの説明をしながら、段階ごとに対応の共有をし、家族や医師等と連携を図っていく方針である。	今後、慣れ親しんだ事業所での看取りを希望する事も考えられるので、重度化に伴う意思確認書(同意書)や事業所が対応し得る最大のケアについての説明書(マニュアル)を作成することに期待したい。また、安心して納得した最期を迎えられるよう、家族・医師・職員が連携を取りながら、取り組んで行く事に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故に備えてマニュアルを作成し定期的に訓練を行い周知している。また、急変時の対応方法については、掲示し家族や見学者などにも説明している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策にはマニュアルを作成し利用者一人ひとりの状態を踏まえて、具体的な避難対策を日頃から話し合い毎月第3木曜日に避難訓練を行なっている。また、地震を踏まえ地震発生時のマニュアルを作成し訓練を実施している。昨年は回覧板を通し近隣の方に呼びかけを行なった。	毎月事業所内での避難訓練を行っている他に、消防署指導の下で年2回の総合訓練を夜間想定も含めて実施している。また、地震発生時のマニュアルを作成し、訓練を行った。その際には回覧等において、近隣の方々に参加呼びかけも行った。職員連絡網も出来ている。備蓄も確保されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修等にてプライバシーについての研修会を行っている。排泄介助の際の声掛けについて等利用者の尊厳を損ねることがないように注意している。	職員は、「介護させていただいている」という気持ちで日々のケアを行っている。声掛けについては特に気をつけており、利用者の気持ちを大切に考え、自己決定しやすい言葉かけに努めている。	

認知症対応型共同生活介護城下庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意向を伺いながらその日の過ごし方を選ぶようレクリエーション等を通じて表情を確認し、より理解できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい過ごし方を利用者と一緒に見出し個々なあった支援を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の起床時には、今日はどの洋服を着たいか選んで頂き、又美容室への送迎も希望に応じ行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮むきなど利用者のできる範囲で食事の準備に携わって頂く。自宅で使用していた食器類を持ってきてもらい、又、行事食等を取り入れながら食事が楽しいものになるよう心がけている。	献立は、季節に応じたものを交えながら職員が考え、法人の栄養士がカロリー等の確認をしている。時折、利用者と一緒に近くのスーパーで食材の買い出しに行く事もある。食事の準備は利用者の出来る範囲内で行っているが、おやつは職員と利用者が一緒に楽しみながら作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態に応じた食事を提供しバランス良く摂取できるよう献立にも気を配っている。既往歴や病状により水分、食事量を考慮している。又献立を法人内の栄養士に確認をもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアへの声かけ、介助を行い個々の状態に応じた口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録にて個人の排泄状況の把握に努めている。トイレでの排泄を行い、オムツを使わないケアに取り組めるよう心がけている。	排泄記録を活用し、トイレでの排泄、おむつを使用しない排泄のための工夫をしている。また、水分補給や、繊維質の多い野菜を取り入れる等、便秘等への対応も自然な形で工夫し、利用者の生活リズムに沿った支援をしている。	



認知症対応型共同生活介護城下庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を記録し水分摂取量がどのように便秘対策に有効か分析をする。水分制限のある方は繊維質の多い野菜を取入れるなど自然排泄に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	家庭生活の延長であることから夜間入浴を中心に実施している。1人ひとりの生活習慣を重んじ個浴にて個別対応をしている。	利用者の一人ひとりの生活習慣やその時々希望を確認しながら入浴が楽しみなものとなるよう支援している。入浴は家庭生活での延長であると考え、夜間入浴を実施している。また、入浴が職員と利用者のコミュニケーションの場となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の生活リズムを把握し日々の状況に応じて休憩して頂いたり夜間入浴により良眠されるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや、誤薬生じないよう服薬確認チェック表や個々独自の薬袋を用意し、服薬の管理、状態の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中に趣味や得意なことなど披露できる機会を設け、張り合いのある日々を過ごせるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の意見を聞きながら行先を決めて地域行事、外食、花見、散歩、ドライブ等を行っている。行きつけの美容室への外出支援を行っている。	地域行事、外食、ドライブ等、利用者の状況や希望に応じた外出支援をしている。家族等の許可を得ながら、買い物へ出かけることもある。外出は家族の協力を得ながら、職員の対応が可能な範囲で、いつでもどこへでも自由に外出が出来るようになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状況や希望に応じて、家族の方の確認を取りながら買物等においてお金が使えるよう支援している。		

認知症対応型共同生活介護城下庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方が自ら連絡を取りたい場合にはいつでも連絡ができるように対応し、プライバシーにも配慮し居室でも電話が使える。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体が古民家風で落ち着ける雰囲気である。季節の花や照明、壁飾り等居心地良く過ごせるようにしている。又、清潔感を保ちほこりや汚れのないよう注意している。	共有空間は居心地良く過ごせる場として、音・臭い・空気の流れ等による五感刺激に配慮した工夫がされている。古民家風の佇まいと、季節感や生活感のある物を活用し、心身の活力をうまく活用しながら暮らしの場を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間においては椅子やテーブルの他にソファを置いたり、又、和室がありそれぞれ過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や置物、好みのものを持ってきて頂きおちついた雰囲気の中で生活できるよう家族や本人に説明している。誕生会や行事の写真を居室に飾ったりしている。	安心して過ごせるプライベートな空間として利用者に合せた部屋づくりに努め、自宅と同様であって欲しいと願っている。居室には、使い慣れた家具や写真等が自由に持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能に合わせた浴室、トイレなど多様な内容に対応できるよう心がけています。共通の場所には見やすい場所に表示するようにしている。		